

青少年育成事業としての花育活動

作成者： 藤沢中央ライオンズクラブ 和田 晃一

■ 実施主体

名 称：藤沢中央ライオンズクラブ
会長 今井 雄一
担当窓口：和田 晃一
ライオンズクラブ国際協会330B8R1Z



■ 取組地域 神奈川県藤沢市

日本大学藤沢小学校
湘南学園小学校

■ 概要

人の心の中に、思いやり、感謝、癒しの気持ちを醸成をするためには、少年少女の頃から花の持つエネルギーを体感することが大切なことなのではないか。自分の作ったブーケでお母さんが喜ぶという、温かな感情を体験させることで、花の持つ優しさをより感じることはできるのではないか。このようなステップを踏みながら、中長期の展望をもって花に触れてもらい、まずは花を活ける楽しさを実践してもらった。

初等教育の中に、将来的に花にかかわる授業が将来的に科目として花開くことを期待し、まずは花に直接触れる喜びを体験してもらった。校長先生にもご賛同いただき、昨年に引き続き2回目の開催である。

授業の一環として、45分の中で花のアレンジメントの制作をした。形はドーム型で360度どこからでも見られる作品とした。小学生には少々難しいデザインかもしれないが、どうしたら作品がドーム型に見えるか 底辺と高さのバランスを考えるという「構造」についても教えながら作品制作をした。

素晴らしい作品が出来上がり、児童との楽しい活動となった。

■ 取組開始時期・経緯

平成26年2月21日藤沢中央ライオンズクラブ設立40周年の式典の事業の中に青少年育成事業の一部として「花育」を取り入れることを内外に発表した。

第1回の実施は、平成27年12月12日日本大学藤沢小学校「母へ送る感謝のアレンジメント」、第2回は平成28年3月1日湘南学園小学校3年生170名、平成28年12月3日日本大学藤沢小学校1年生親子70名で実施した。

事業の実施に当たり、予算の計上については、年度当初に理事会へ企画書並びに予算案を提出、次に全員例会での承認を受けてからレクチャー講師希望者を募集し、6名が私のスクールでの特訓を受けて現場での講師に就任した。今回は3回目でもあり、講師もフラワーデザイナーの風格が備わってきたように感じる。

■ 目的（目標）

・「梅檀は双葉より芳し」（せんだんはふたばよりかんばし）

小さいころから花に親しむことで、花の持つ生命力を体感したり、作品を完成するための集中力を養い、安定した心を育てる。

家庭の中でも、花のある生活や空間を楽しんでもらいたい。

■ 目指すもの

昔の学校の教室には、花瓶や一輪挿しに花が活けてあったと記憶している。

今の小学校の教室には、どのくらい花が飾られているのだろうか。

学校や教室に花があることで、心が落ち着いたり和んだりして、学校教育の中にある「いじめ」や様々な問題が少しでも減少すればよいと考えている。同じように、家庭の中にも1本の花が食卓に在ったら心が和むのではないか。また、レストランに行った時、たった1輪でもテーブルに花が在ったら、素敵だと感じるのではないか。

1輪の花による影響が、心の中に余波となって広がるには時間がかかると思うが、教育とは時間のかかることであり、今から少年少女の感性の中に花の持つ素晴らしさを感じてもらいたい。



開始前にスタッフミーティングを行い
説明手順などを確認する



わかりやすく黒板に手順を書いておく



全体説明の後に、各クラスに分かれて
フラワーアレンジメント作りを行う



教室では、児童のとなりに保護者が座り
一緒にフラワーアレンジメントを作る

【取り組み内容】

- 対象者・人数：日本大学藤沢小学校
1年生4クラス
児童70名+保護者70名 140名
- 教 科：土曜日に実施
- 所要時間：2時限
- 対象場所：小学校教室
- 指導者：1クラス4名（12名）
- テーマ：親子で作るドーム型のフラワーアレンジメント



■ 資材

<制作サイズ>直径25センチ×高さ15センチ

- ・ ①花器（直径15cm）
アレンジ用バスケット 1個 茶色
- ・ ②吸水性スポンジ 1/2サイズ
- ・ ③セロファン（防水用） 1枚(45×45cm)
- ・ ④制作手順説明解説資料（図解） 1枚
- ・ ハサミ、定規（生徒持参）
- ・ 持ち帰り袋 1枚
(作品が出来上がってから配布)



■ 花材（一人分ずつセロファンで巻いておく）

- ・ ホールカーネーション 1本
- ・ スプレーカーネーション 5本
- ・ カスミソウ 1本
- ・ スターチス 2本
- ・ レザーファン 3枚



机の上には、事前にバスケットにセットした吸水性スポンジと花材、資料を置いておく

■制作手順詳細

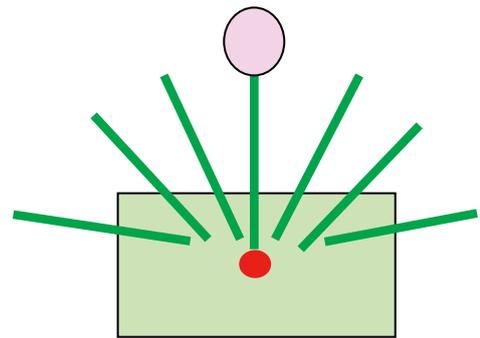
1. 完成形の説明、ドーム型とはどんな形か、底辺と高さの比率。どうしたら綺麗に見えるか。
2. 完成寸法の確認、今回は底辺を25cmに、高さを15cmに設定した。小学校1年生には難しいかもしれないが、アレンジメントの完成形のバランスを体験の中で体得してほしいと考え企画をした。
3. 吸水性スポンジの性質説明
毛細管現象、毎日の給水の必要性の説明など。
4. 花の挿し込みの長さ等について
吸水性スポンジの中に設定した1点に向かって、茎が放射状になるように挿すことで茎が吸水性スポンジの中で交差しないようにする。茎を吸水性スポンジに3~4cmの深さまで挿し込むとよい。

■事前の準備

1. 容器（バスケット）にセロファンを敷き、十分に水を吸わせた吸水性スポンジをセットする。
2. 容器の縁の吸水性スポンジに10センチにカットしたレザーファンを8枚円形に挿し込む。
上下各1枚、左右各1枚、次にその間に各1枚を挿す。
3. ホールカーネーション1本を、高さ18~19cmにカットする。
4. スプレーカーネーションの開花14輪分を、高さ10~15cmに茎を切り分ける。



使用する花を使って説明する



横から見た断面図



容器の縁にレザーファンを挿していく



花を切る長さは、指を使って説明

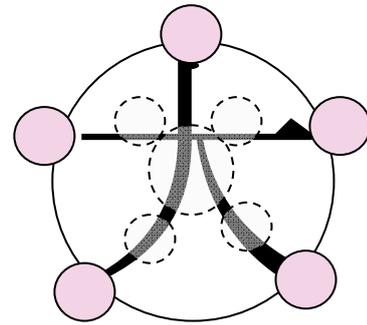
■ 制作

1. ホールカーネーション1本を吸水性スポンジの中央に垂直に挿し込む、容器の縁から高さ10～13センチに設定する。次にその周りにスプレーカーネーション4本を15度傾けて挿し込む。



ホールカーネーションを
吸水性スポンジの中心に挿します

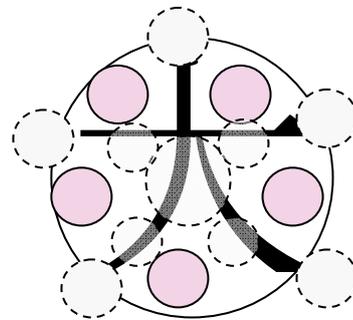
次にスプレーカーネーションを側面に対して水平に5本配置する。この時に、1年生にもわかりやすくするために、漢字の大きな字をイメージして配置すると五角形に近い形になる。



2. 次に側面に挿した花の位置から30度ほど上がった場所の大きな字の間に、カーネーションを5本挿していく。これで、ドーム型の配置が完成です。



カーネーションがドーム型になるように挿していく



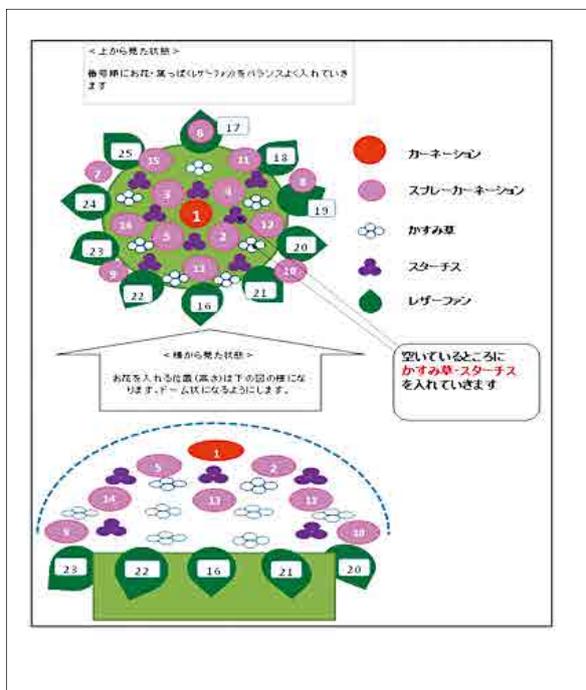
3. 空いている空間に、10～15cmの長さにカットしたスターチスを挿していきます。動きを付けるために、カスミソウをスターチスやカーネーションの少し上になるように配置すると高低差ができて動きがでます。これでドーム型は完成です。



ドーム型のフラワーアレンジメントが完成

指導ポイント

1. まず出来上がっている作品を見せて、これから作る作品をイメージしやすくする。ここで、作品や花そのもの美しさを感じてもらい、生徒が関心をもてるようにする。
2. どのようにフラワーアレンジメントが出来るのか、きれいなドームの型に見えるように仕上げる事が出来るにはどうしたらいいのかを説明する。
3. この時に花の寸法も説明することが大切。数字ではなく、見た目の感覚で説明する場合は、「親指と人差し指の間の長さ」、「親指と中指の間の長さ」など、身近な体の部分を使って説明することも必要。



保護者用の制作手順解説資料（図解）



完成のイメージができるように見本を用意



親指と人差し指で、花を切る長さを確認



ハサミを使うときは、保護者にも手伝ってもらう

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

1. まずは、児童の日常生活の中で、誰かに喜んでもらいたいという深層心理に着目をするとういと考えた。今回は、お母さんに自分で生けた花をプレゼントすることを基本とした。大人になった時にも、子供のころに味わった感動やうれしかった気持ちを覚えていてほしい。



デザインを考えながら生けていく



藤沢中央ライオンズクラブの花育指導者

2. 今回の経費は

藤沢中央ライオンズクラブの青少年育成プログラムからの提供です。
生徒には金銭的負担は有りません。

3. 経費

1人当たりの花材・資材費 約2,000円程

ホールカーネーション	1本	スプレーカーネーション	5本
スターチス	2本	カスミソウ	1本
レザーファン	3枚	吸水性スポンジ	1/2個
バスケット	1個	セロファン	1枚



完成したフラワーアレンジメント作品



作品は、学校の出窓にも飾りました

■ 学校からのお礼の手紙

和田晃一先生

拝啓

師走の候 何かとご多用のことと存じます。

先日は、特別講座を実施していただき、誠にありがとうございました。今年もたくさんの感謝の声が寄せられております。先生をはじめ、当日ご指導いただいた皆様方に感謝申し上げます。

さて、今年も児童の書いた手紙を送らせていただきます。それぞれが思いを込めて書いておりました。ご一読いただけると幸いです。

これからもお付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

寒さ厳しき折、くれぐれもお身体ご自愛ください。

敬具

日本大学藤沢小学校



藤沢中央ライオンズクラブ 指導担当 和田 晃一（左）と
日本大学藤沢小学校 校長 坂庭 眞吾先生（右）の記念撮影

■ 今後の課題

1,2年連続で3回の実施をしたが、予算は藤沢中央ライオンズクラブの青少年育成プログラムから支出した。

現在、私の所属してる藤沢ライオンズクラブでは、今後も継続的に花育を実施する方向に進めているが、助成等があれば経済的な負担が削減できる。

